

◎4月8日(日)開催 第3020回例会  
兵庫県山岳連盟創立70周年記念企画同調  
「幻の徳川道(全行程)を歩く・そのI」に  
参加して

布引支部 渡田 哲夫

学生時代よりスポーツは剣道!・・それ以外に興味はあってもやろうとは思っていなかったが、定年後の事を考えて始めた「山歩き」にハマって数年が経ちます。ヒヨコ登山会に入会してからは、例会で行く数々のハイキングから、近年入会された仲間(ニューサークルメンバーと勝手に言ってます!)と一緒に登山の知識を学びながらの楽しい山歩きに参加。加えて個人的には「ツアー登山」に申込み、北や南のアルプスへ出かけています。



徳川道東起点に立てられている解説板

六甲山地を歩くようになった頃、徳川道の名は摩耶山の裏にある僅かな山道だけのこととっていたのですが、知識が付くにつれて全行程34キロもある「幻の徳川道」を是非踏破してみたいと思っていました。そしてその機会を今回ヒヨコの同調例会(兵庫県山岳連盟創立70周年記念企画)で得ることが出来ました。

全行程を3分割で踏破するスケジュールの今回は第1回目です。コースは東の起点(阪神石屋川駅北へ30メートルの西国街道出合)から徳井・平野・高羽・篠原を通り、急峻な杣谷道(カスケードバレー)を詰め、杣谷峠へ出て桜谷出合から西へ森林浴コースを歩き、神戸市森林植物園正面入口前までの約11キロです。



スタート前に記念撮影(東の起点にて)

簡単なストレッチで身体をほぐした後、岳連役員の皆さんの紹介や、今コースの概要説明が有り、8時45分に出発しました。石屋川に沿って北上し、西の六甲八幡神社横を通過、北西方向にある神戸護国神社を目指しました。篠原南町周辺は大変複雑なコースでしたが、説明を交えながら先導して下さった吉野会長(山岳連盟常任理事)が言っていた予定の時間通り護国神社へ到着。休憩後、同行された環境省アクティブレンジャーTさんより「瀬戸内海国立公園六甲山地について」の説明があって、いよいよ徳川道全行程中の最難関であったであろうと思われる杣谷道(カスケードバレー)へと向いました。



環境省アクティブレンジャーTさんの説明を聞く

長い年月を経過してきた間には堰堤などが多く出来ており、登山道もそれなりについてはいるものの、カスケードバレーの名の通り、小滝の多い谷沿いのこの急峻な杣道、馬や牛まで連れて歩いたとは到底想像出来るものではありませんでした!・・・

2時間足らずの格闘?の後、ようやく杣谷峠へ到着。トイレを済ませ穂高湖へ着いたのはスタート時に聞いていた時間通りでした。



温ったかい飲み物で疲れを癒す昼食タイム

30分余りで昼食・休憩を済ませ後半に向かう。出発に先立ち、山岳連盟の田中理事さんより徳川道の道幅について、予め用意されていたヒモで具体的な説明が有りました。道幅は平均2間程(約3.6メートル)であったとのこと。又、参加されておられた神戸大学名誉教授・神木哲男先生より、出発時に頂いていた徳川道資料に基づいての解説を聞くことが出来ました。徳川道の正式名は「西国往還付替道」。神戸開港の歴史に沿っての解説や、付替工事の概要など、今後のコースと併せ勉強したいと思いました。



解説に熱心に聞き入る参加者

桜谷道出合までに設置されてある徳川道についての解説看板近くには、近辺にあった石を積み上げて通りやすくしたのであろう石垣跡が有り、その縁を少し感じることが出来た。徳川道の名残りの石垣であり、この石垣の上を徳川道が通って

いたこと、この石垣は25間(約45m余)にわたってつくられ、高さは平均4尺(約1.2m)であったこと。いま残っているのはその一部であること。・・・など、解説板に基いて吉野会長より説明が有りました。



石垣に付いての説明を聞く



昔はわらじ!

桜谷出合の石渡りを超えると平坦で歩きやすく、森林欲にはもってこいの道となります。この道幅ですと解説にあった徳川道として納得出来るのですが!・・・



下りはラクチン?・・・それでもアリマセン!

植物園東入口へ入る最後の石渡りでは、不安定な渡り石であったため、全員渡りきるのに時間を費やすも、ゴールの森林植物園には予定時間通り到着。三ノ宮行の市バスや神鉄北鈴蘭台駅への無料バスで帰宅の途に着くことが出来ました。

写真：勝田 徹(旗振支部)

松本 良一(布引支部)

天候 晴れ

担当 例会・自然保護委員会

山岳連盟/自然保護委員会

参加者 61名(内当会員47名)